



NPO法人PIECES

どんな子どもも尊厳を持って豊かに生きられる社会

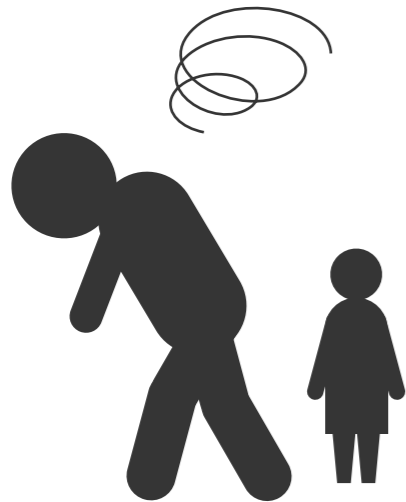
2016年6月22日 NPO法人PIECES設立

こども支援

「人」づくり

PIECESは、貧困や虐待などの課題を抱える孤立している子どもたちへのサポートを行っている。子ども達の日常に寄り添う支援者「コミュニティスワーカー」を育成している。コミュニティスワーカーは、様々な研修や教育プログラムを受け、子ども達のニーズや興味関心に合わせて、一人一人に合った支援を作っている。

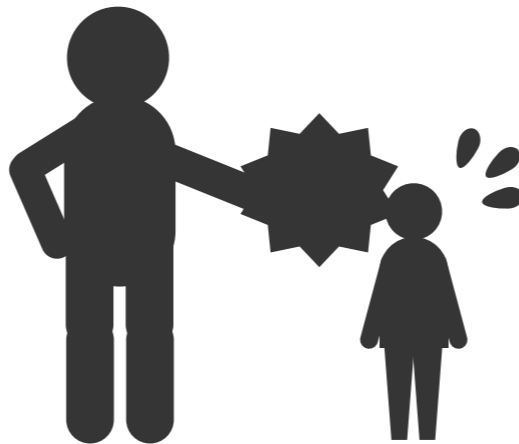
子どもたちを取り巻く現状



貧困

6人に1人

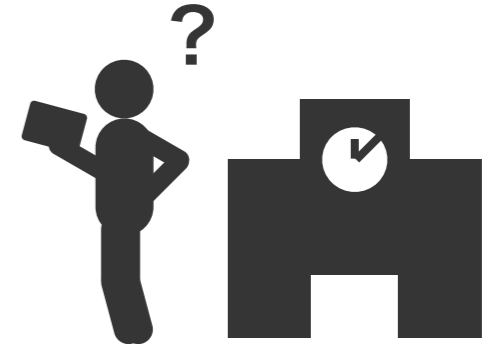
相対的貧困の割合



虐待

46,000人

虐待等により家庭で適切な養育を受けられない児童数



不登校・中退

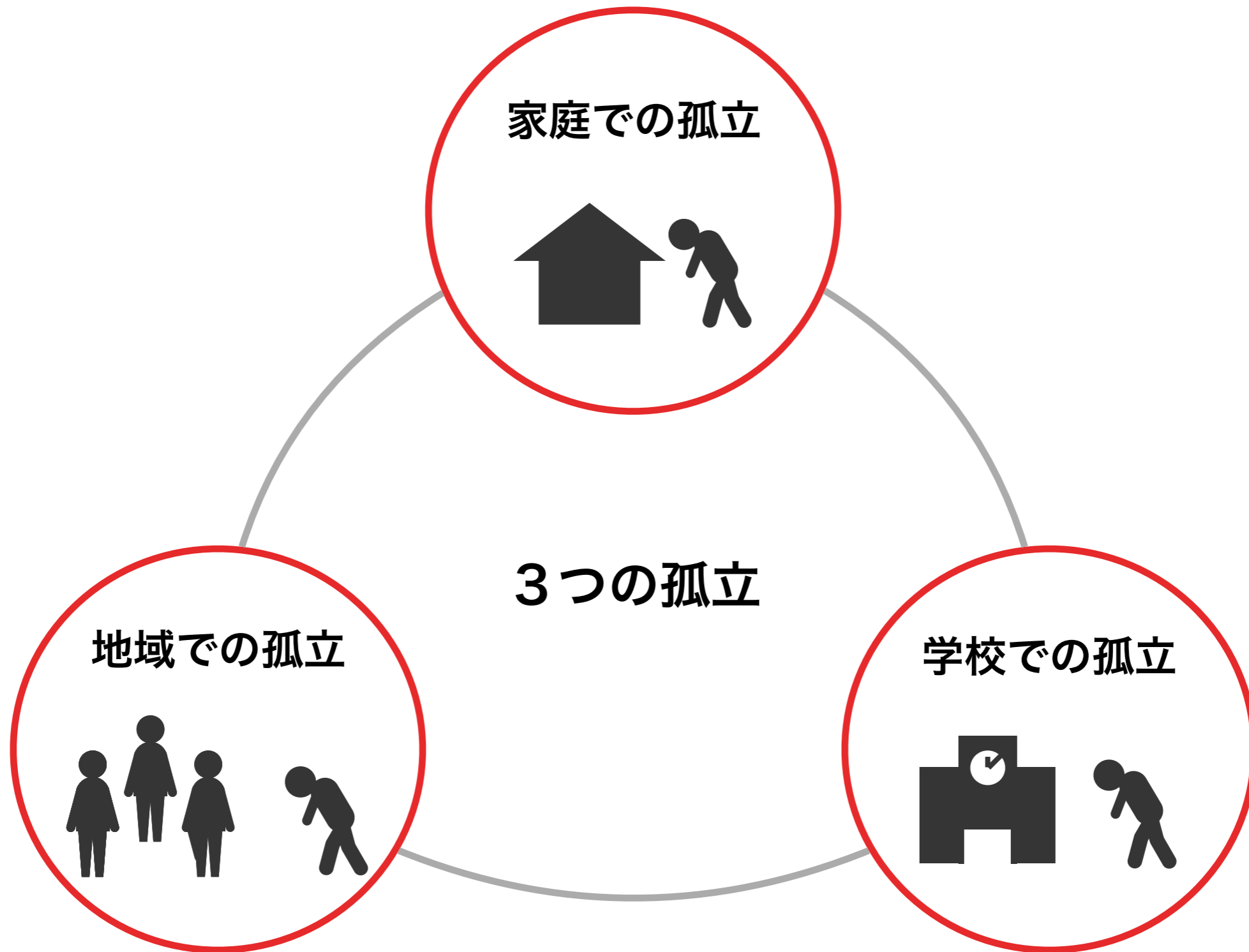
12万人

小中学校の不登校児の数



背景にあるのは子どもの孤立

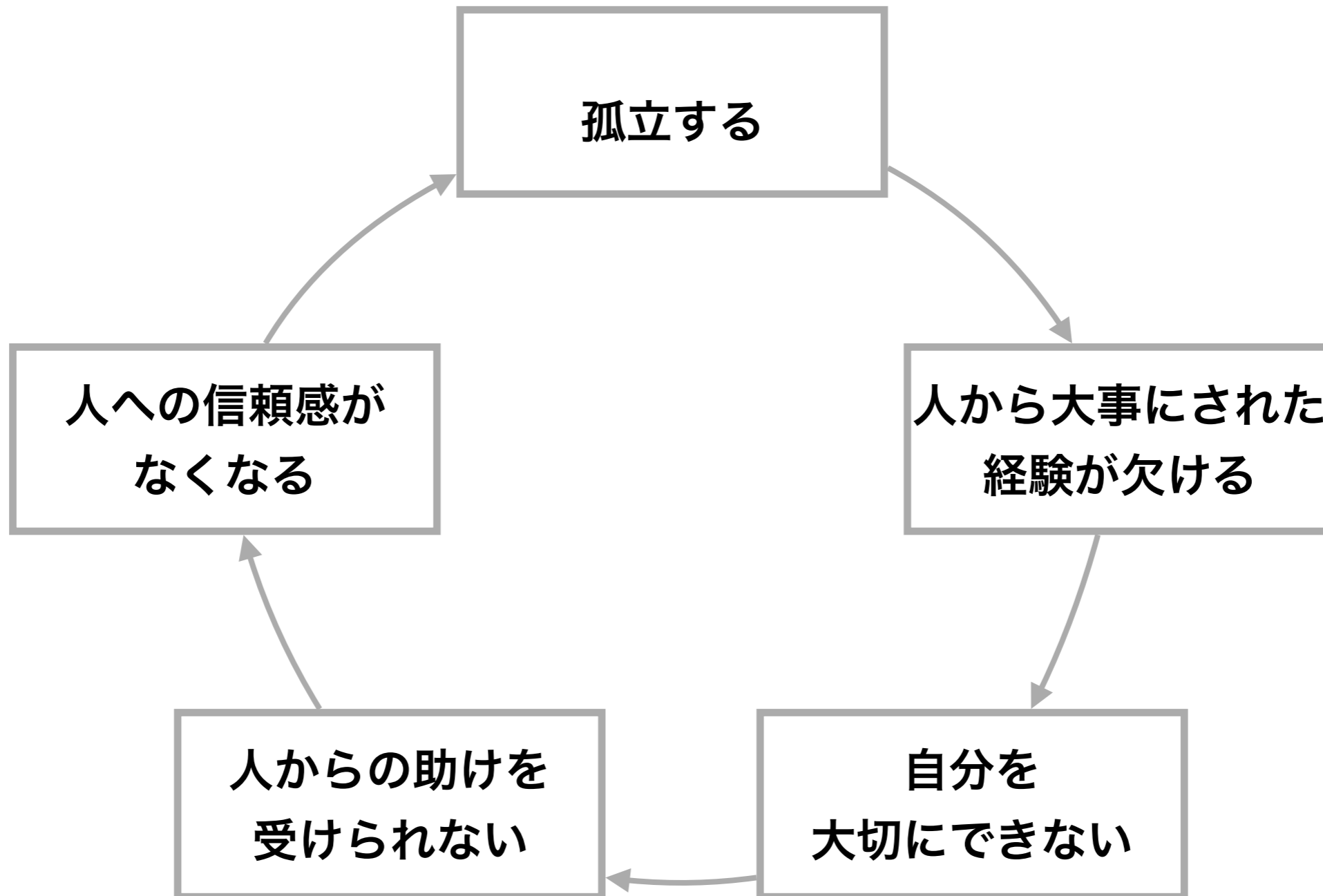
子どもの孤立の種類



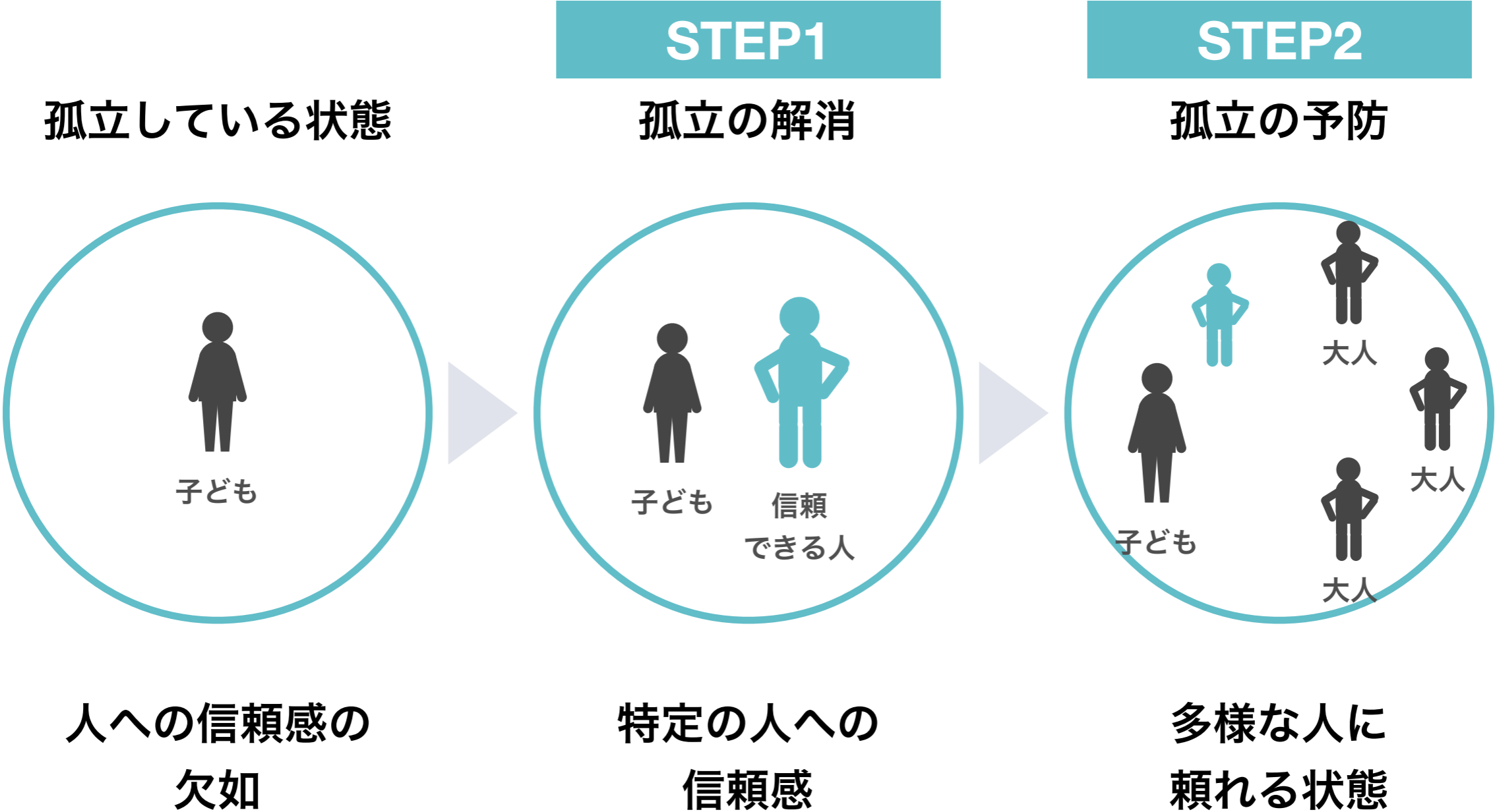
子どもの孤立の種類



孤立のループ



孤立解消のステップ



PIECES事業概要

ビジョン

どんな子どもも尊厳をもって豊かに生きられる社会

ミッション

行政、地域が連携した、孤立が生まれない仕組み作り

事業内容

孤立調査事業

孤立している子どもがどのくらいいるのか把握できないため、調査プロジェクトを行い、PIECESの取り組みの評価が測定可能なものにする。

CYW育成事業

行政、地域と連携し、孤立した子ども達に寄り添い、子ども達の声聞き、支援に繋げる伴走者の育成。

会員コミュニティ事業

孤立した子ども達を支える多様な地域、企業の人などを集め、子どもを支えるコミュニティを生み出す。



COMMUNITY YOUTH WORKER 育成プログラム

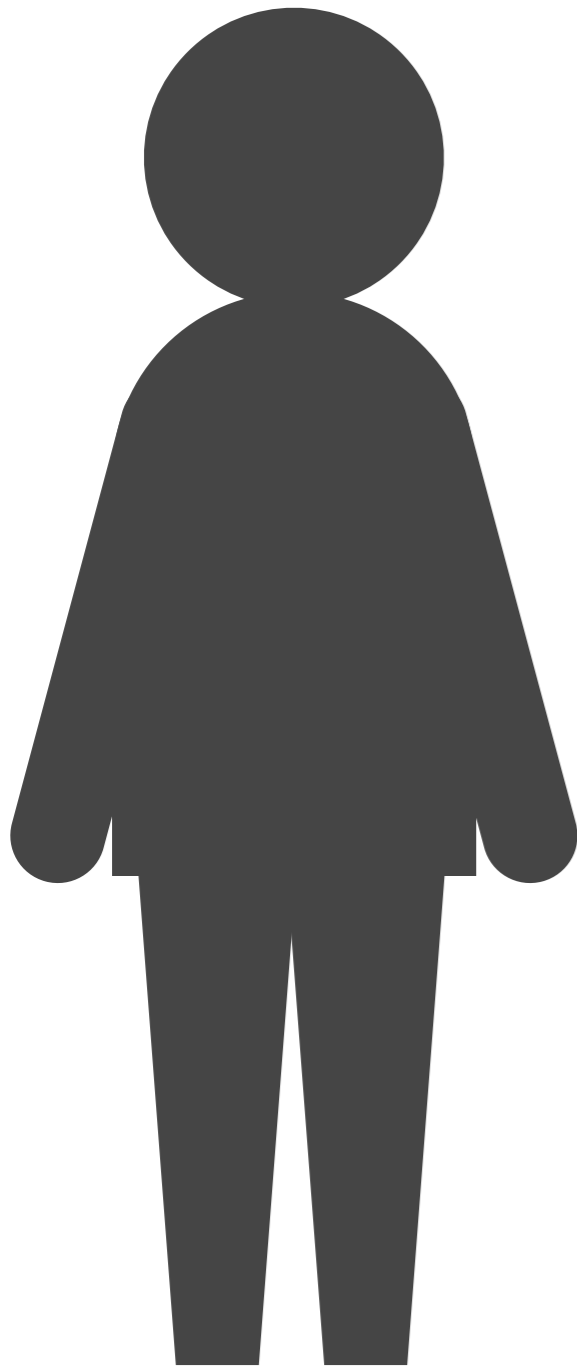
約6か月間、子ども支援に必要な研修を受け、
子どものニーズに応じた支援を作れる
支援者養成プログラム

信頼できる1人の大人～コミュニティースワーカー～

ひとりぼっちの子と関係を築き、社会に接続する

肩書きなどではなく、
一人の個人としての関係性を築く

- ・ 個別支援（家庭訪問や1対1の支援）
- ・ 継続的なオーダーメイドの支援



CYW1期生紹介



木村遥香 (26)

シンクタンク勤務

関心テーマ：10代ママ



塚原萌香 (24)

保育士

関心テーマ:10代ママ



前沢学 (24)

営業職

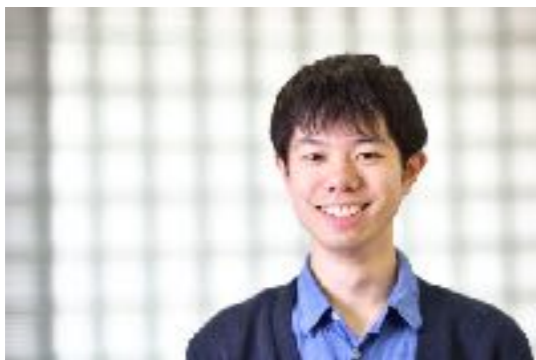
関心テーマ:家族のあり方



北山雄大 (21)

大学生

関心テーマ:中高生



坂牛怜 (24)

大学生

関心テーマ：自殺予防



中村朋也 (32)

都庁勤務

関心テーマ：不登校



安森正実 (18)

大学生

関心テーマ：思春期の女子

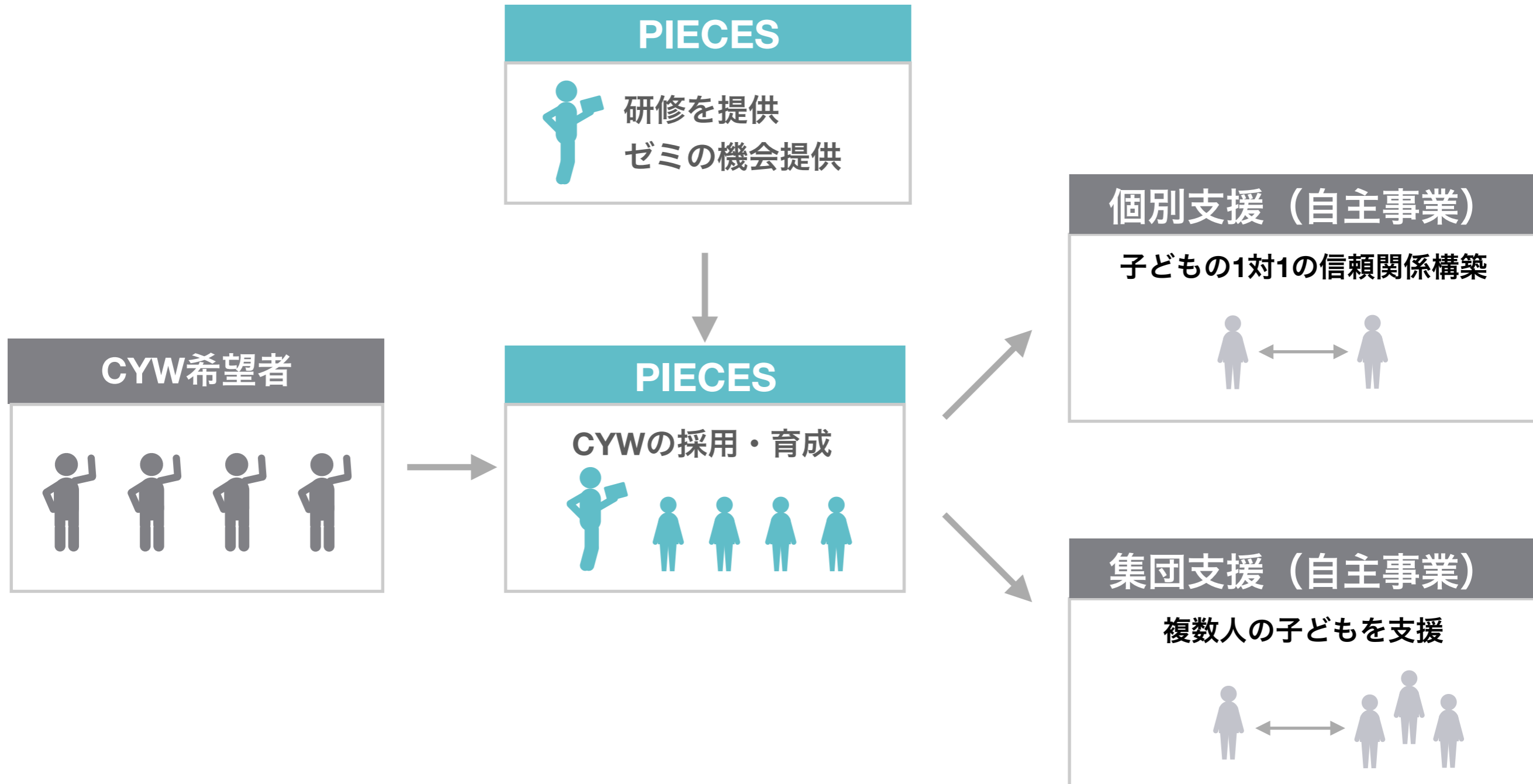


平松萌々子 (22)

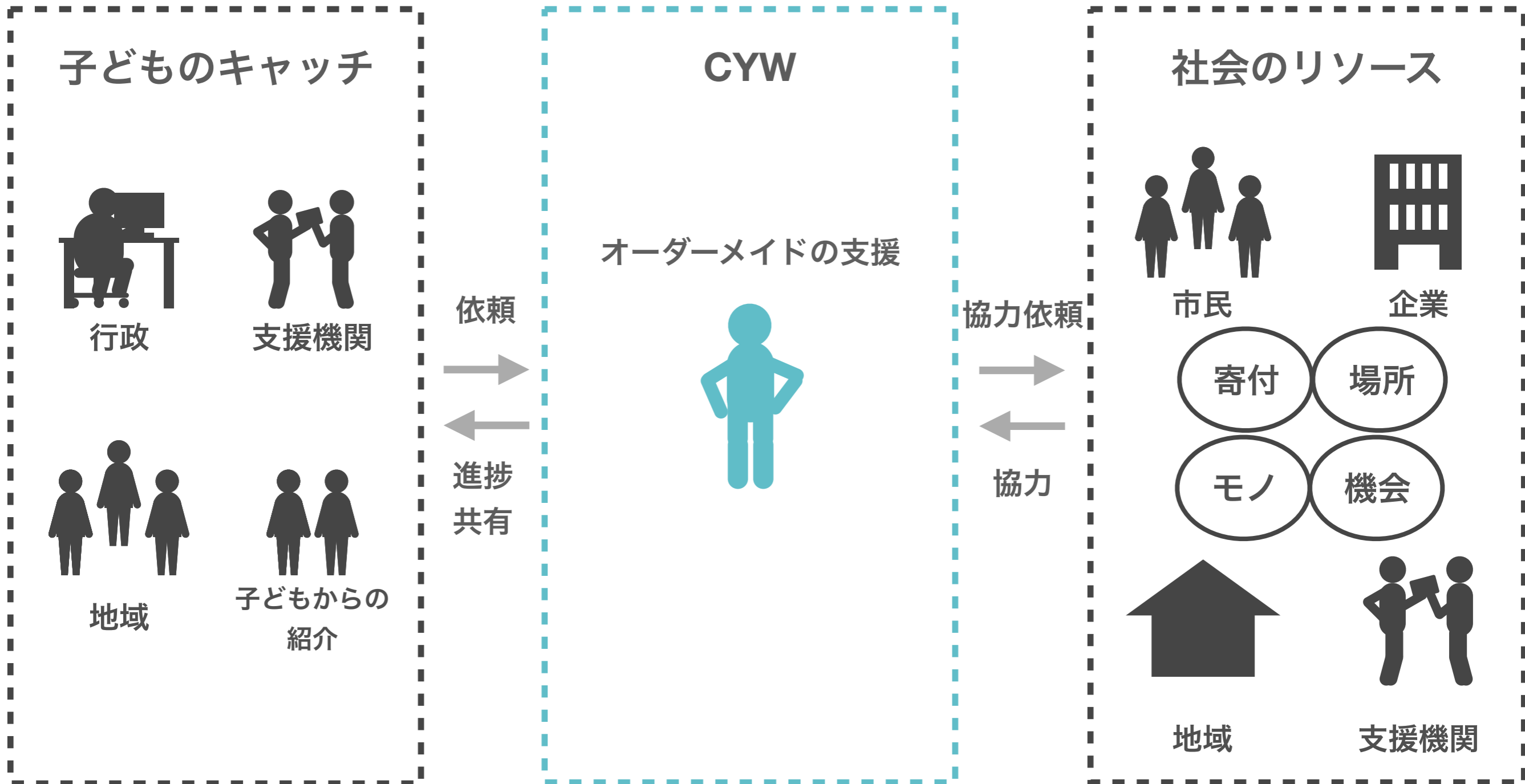
大学生

関心テーマ：就労支援

CYWの支援プロセス

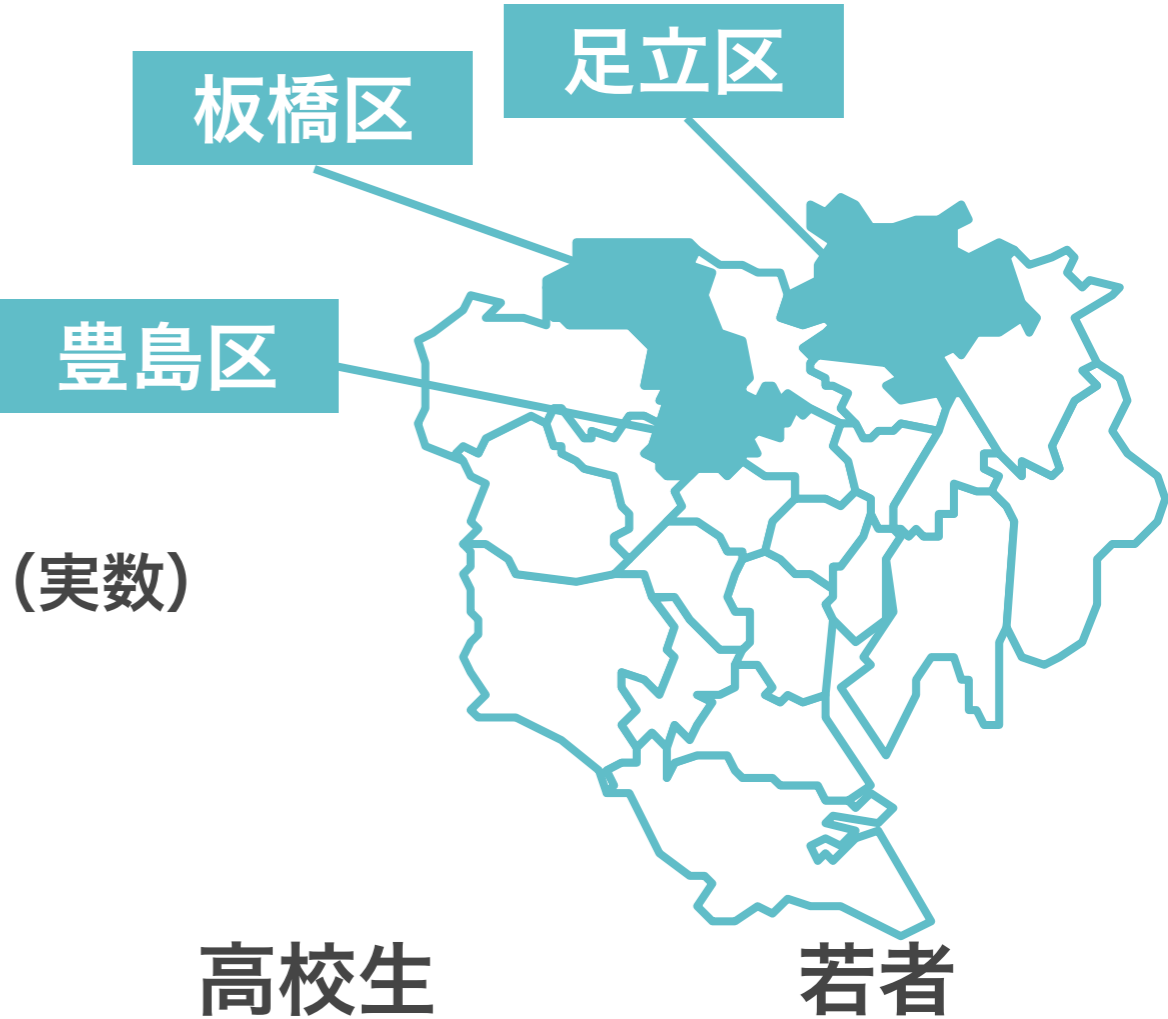


CYWの取り組み全体像

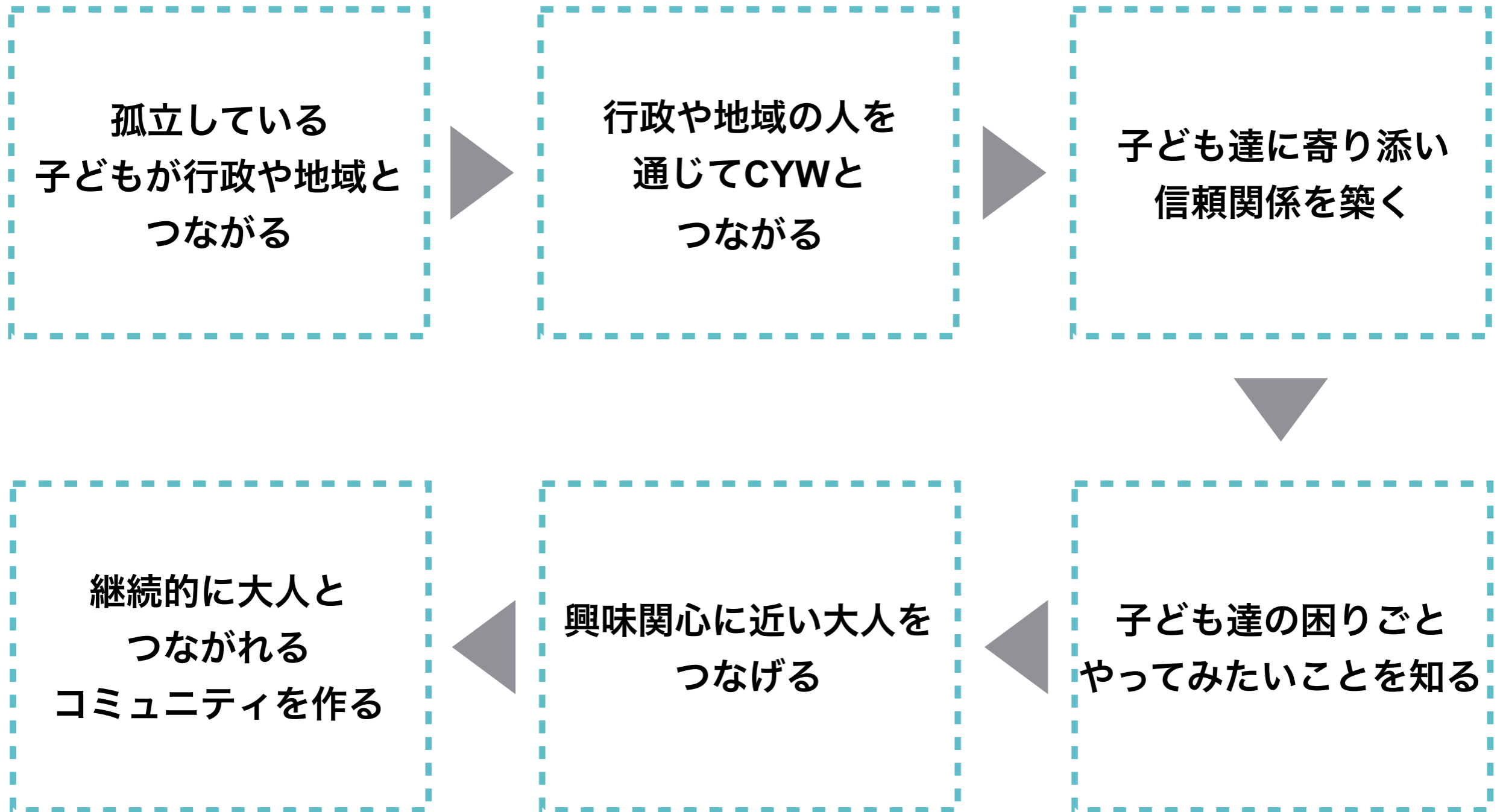


CYWの1期、2期活動実績

CYW人数 **16名**
支援人数 **194名** (実数)



子ども達との関わり方のステップ



CYWの プロジェクト紹介

板橋区

もえおん家

古民家を借り、地域の方と一緒に10代ママをサポート
家事、学習、進路のサポートなど自立に向けた支援

豊島区

不登校のサポート

SSWと連携して不登校児の家庭訪問を実施

勉強、遊び、外出、その子のニーズに応じてサポート

ゲーム制作イベント

ゲームクリエイターとのコラボイベント

チームで作りたいゲームを考え役割分担して開発を進める

クッキングイベント

プロの料理人に料理を習い
料理人を目指す中高生が大人に料理を振る舞う

高卒認定のサポート

高校を中退してしまった子達に
学び直しの機会と進路選択をサポート

スポーツ大会

支援につながりにくい子達に
スポーツを通じて大人と出会うきっかけを作る

子どもを ひとりぼっちにしない プロジェクト

GoodMorningで特設ページを開設

<https://camp-fire.jp/channels/pieces>

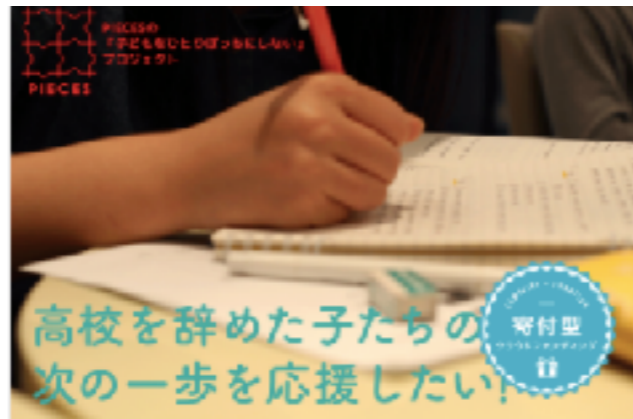


それぞれの活動の詳細とコミュニティユースワーカーの思いは、特設ページURLよりご覧いただけます



寄付型

料理を振る舞う機会を通じ、自分の可能性を認識できるレストランイベントを定期的で開催。



寄付型

高校を辞めた子たちの次の一歩を応援したい！

高校を辞めた子たちの将来の選択肢を増やすため、高卒認定試験の勉強環境を用意。



寄付型

不登校の子たちに安心できる関わりを届けたい！

不登校の子の家庭に訪問、不足しがちな人との繋がりを築く、一对一の支援。



寄付型

ママが自分らしくいきいきと人生を歩める社会へ

もえが家

1人で子育てをする10代のママに必要なサポートと繋ぐコミュニティスペース。



寄付型

貧困世帯や不登校の子達にプログラミング体験を届けたい

経験の格差を解消するため、子どもの主体性や興味を育むプログラミング教室。



寄付型

困難を抱える子どもたちとスポーツ大会を開きたい！

困難を抱える子どもたちと、「楽しい」切り口から関わるためのスポーツ大会を開催。

寄付
募集中

6
プロジェクト
掲載中

月額
¥500
から支援可能

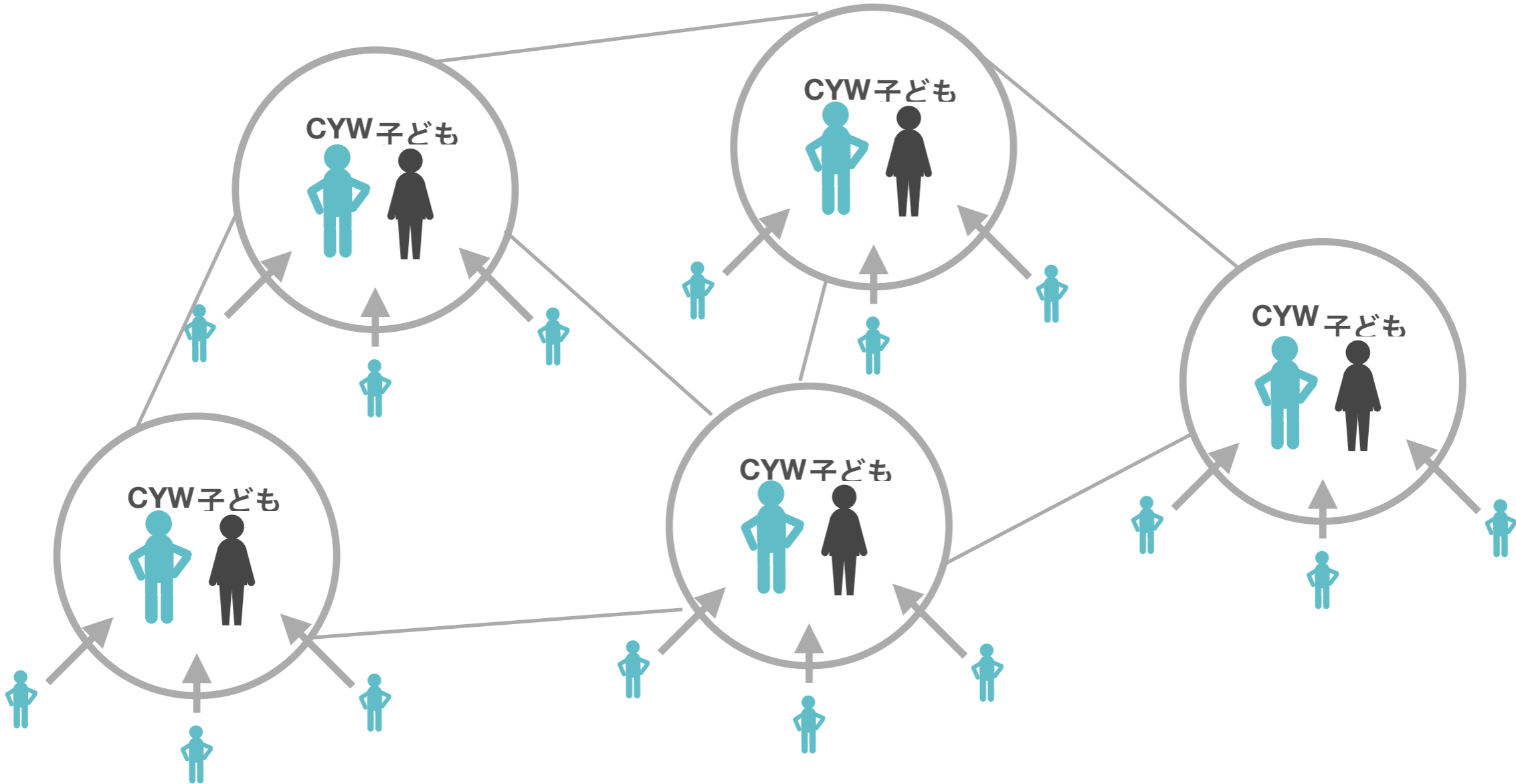
「子どもをひとりぼっちにしないプロジェクト」お問い合わせ先：goodmorning@camp-fire.jp

子どもの支援を行政だけが担うのではなく、行政と連携しながら市民の手で、共助のネットワークを構築し、子ども達が孤立しない社会を作る。

行政・公的支援

相互に連携

多様な人・コミュニティで支え合う共助のネットワーク



組織体制

PIECES経営メンバー



小澤いぶき

代表理事/ Founder /東京大学先端科学技術研究センター特任研究員/児童精神科医
精神科医、児童精神科医として臨床に携わる中で、様々な環境に生きる子どもたちに出会う。
子ども達との出会いを通して、どんな子どもたちにも権利と尊厳がある社会を目指し、子どもたちの可能性が活かされる多
様性のある生態系の必要性を感じ、2013年よりPIECESの前身となるDICを立ち上げ生態系づくりを行ってきた。



荒井佑介

副代表 / 理事 / CYW育成プログラム責任者
2013年パソナ入社、営業として配属されたのちに、新規事業開発室に所属。2015年5月パソナ退職後、NPO法人PIECES
の立ち上げに従事
ホームレス支援からはじまり、6年前に子どもの貧困に関わり始め、中学生の学習支援を皮切りに子どもの支援に力をいれ
る。子ども達に勉強を教えていく中で、彼らの抱える複合的な課題を学習支援だけでは解決できないと感じ、出会った子のニー
ズに応じて、多様な大人の協力を募り、オーダーメイドの支援を個人で展開していた。個人の活動をベースにコミュニティ
ユースワーカー事業を立ち上げた。



斎典道

理事 /社会福祉士
大学在学中より国内外の社会的養護、地域子育て支援の現場でフィールドワークを実施。2012年には北欧の社会福祉を学ぶ
ためデンマークに1年間滞在。国民の日常に溢れる、文化としてのウェルビーイングの価値に深い感銘を受ける。
日本福祉大学大学院在学中に代表の小澤と出会い、設立に参画。子ども・子育て家庭の教育福祉問題に対してシステミックな
変革を追求する、独立型ソーシャルワーカーという新たな道を切り拓くべく猛進中。



青木翔子

理事
東京大学大学院学際情報学府 修士課程。学習環境デザイン論を専門に学んでいる。
どんな環境にいる子どもや大人でも、いつでも豊かに学ぶことができる社会のために、学習を「趣味縁」「居場所」という観
点から再考することを目指し、修士研究では、生徒・学生が学校外で活動するテクノロジークラブについてエスノグラフィを
行っている。
PIECESでは、支援者（教育者・ボランティア）のための研修・コミュニティの設計・運営を行っている。

PIECES理事

香川秀太

青山学院大学社会情報学部・准教授。博士(心理学)。専門は、教育心理学、活動理論。多様で異質な人々によるコミュニティ創造や学習過程について、マルクス哲学、ヴィゴツキー学派のアプローチから、研究や実践開発を進めてきた。著書に「越境する対話と学び」（新曜社）、「インプロをすべての教室へ」（新曜社）等。日本教育心理学会優秀論文賞、国際活動理論学会（ISCAR）優秀発表賞等受賞。日本質的心理学会編集委員、日本ビジネス心理学会理事、任意団体ジャパンオールスターズ副代表等兼任。

谷口太規

アメリカ・ミシガン州の公設弁護人事務所「Michigan State Appellate Defenders Office」ソーシャルワーカー。少年時代に終身刑を受けた人たちの出所後支援に従事。2006年より弁護士。「東京パブリック代表法律事務所」「日本司法支援センター」等で、公益分野を中心として弁護士活動を行う。2011年に東京都豊島区にて貧困世帯の子どもたちに対する学習支援活動「クローバー」を行う「キッズサポーターズとしま」を設立し、代表として活動。2015年よりフルブライト奨学生として、ミシガン大学ソーシャルワーク大学院修士課程に留学。2017年5月より現職。関心は社会的排除、公共圏。

松川倫子

インパクト投資とリーダー育成を世界で展開するNPO「Acumen」の本部にてリーダー育成プログラムのデザイナーを務める。ゴールドマン・サックス、グロービスの後、ハーバード教育学大学院で教育学修士を取得。2013年夏からNY在住。社会課題を根本的に解決していく際に必要となる「物事の捉え方」や「課題解決に不可欠な心構えとスキル」の習得・実践機会をオンラインコース、オンラインコミュニティ、フェロープログラムという形で展開。2016年、Forbes Japan「世界で闘う『日本の女性』55人」に選出された。

田辺元

外資系コンサルティング会社・アクセンチュアのコンサルタント。東京大学大学院を修了後、2014年に新卒で入社。戦略部門にて、各種事業戦略の策定や新規事業立案のプロジェクトに従事。学生時代より教育に関心が強く、大学院在学中に代表の小澤と出会ったことをきっかけとしてPIECESの前身である任意団体DICの創設にも携わる。PIECESでは、主に事業戦略の立案を担う。

田上佑輔

やまと在宅診療所院長。東京大学医学部卒業後、東大病院腫瘍外科勤務を経て2013年より現職。2010年医療を通じて日本を良くするチームを結成：Good Medicine Japan（GMJ）。3.11東日本大震災ではGMJ（頑張り！宮城実行隊）として被災地で応援祭を開催。2013年より東京と被災地にて在宅診療所を開業。同時に医師からの情報発信メディア“coFFee doctors”を運営。

吉岡利代

国際人権NGO「Human Rights Watch（ヒューマン・ライツ・ウォッチ、HRW）」上級プログラムオフィサー。高校と大学はアメリカで過ごし、日本に戻ってから外資系金融会社に就職。その後、国連難民高等弁務官事務所での勤務を経て、2009年にHRW東京オフィスの創設メンバーとなり、現在に至る。2011年、AERA「日本を立て直す100人」に選出。同年、世界経済フォーラム「Global Shapers Community（GSC）」に選出され、2013年度は東京ハブのキュレーターを務めた。

アドバイザー



湯浅 誠

社会活動家 / 法政大学教授

1969年東京都生まれ。東京大学法学部卒。2008年末の年越し派遣村村長を経て、2009年から足掛け3年間内閣府参与に就任。内閣官房社会的包摂推進室長、震災ボランティア連携室長など。政策決定の現場に携わったことで、官民協働とともに、日本社会を前に進めるために民主主義の成熟が重要と痛感する。



望月 優大

スマートニュース株式会社 マネージャ グロース/パブリック担当

慶應義塾大学法学部政治学科、東京大学大学院総合文化研究科修士課程修了（ミシェル・フーコーの統治性論/新自由主義論）。経済産業省、Googleなどを経て、現在はIT企業でNPO支援等を担当。関心領域は社会問題、社会政策、政治文化、民主主義など。趣味は旅、カレー、ヒップホップ。1985年埼玉県生まれ。

足利 安武

東京都児童相談センター / 臨床心理士

緒方 広海

臨床心理士 / PCIT-Japan 理事 / CARE-Japan 理事

加藤 郁子

児童精神科医/小児科医 / CARE JAPAN 理事 / PCIT JAPAN 理事